

草綿 キワタ トウワタ ワタ 一名棉詳芳 家具通雅 綿花秘傳 木綿草叢書 子花

東西 洋考 吉貝花 同上 無縫綿河間 府志

木綿草綿ノ別アリ、木綿ハバンヤ、草綿ハトウワタ、即今本邦ニ栽ユル所ノ者ナリ、時珍ノ説ニハ、

草木通ジテ木綿トス、故ニ木綿有草木二種ト云似木之木綿似草之木綿ト云、其名紛ハシ、典籍便

覽、廣東新語等ニハ、草綿木綿ヲ分ツ、宜シク從フベシ、中略草綿ハ今諸國ニ栽ユルワタナリ、中略

唐山ニテモ宋ノ初時、南蠻ヨリ始テ江南ニ來ルト云、其草高サ三四尺、枝葉互生、葉三五キレコミ

テ、ツタモミヂノ葉ノ如シ、秋ニ入テ葉間ニ花ヲ開ク、五出淺黄色、瓣心ゴトニ深紫色アリテ、黃蜀

葵フ花ノ如シ、後實ヲ結ブ、形桃實ノ如シ、俗ニモ、ト呼ブ、唐山ニテモ、花桃詳芳 又花鈴子松江 府志ト云、

又内ニ綿ナキモノアリ、僵囊松江 府志ト云、熟スル時雨フラザル時ハ、モ、開キ綿ヲ吐ク、潔白ニシテ

中ニ種子アリ、ワタバ子ト呼ブ、是ヲ白綿子東醫 寶鑑綿纏子同上ト云、又赤花ナル者アリ、晚種ナリ、尋

常ノ者ハ早種ナリ、又近年蠻産ノ草綿ヲ傳ヘ栽ユ、苗長サ丈餘ニ及ブ、種子小ニシテ小豆ノ如ク

褐色ナリ、尋常ノ者ハ子圓大ニシテ色黒シ、綿ト子ト粘シテ離レ難シ、故ニ赶車ワタクリニカケテ核ヲ去

ル、蠻種ノ子ハ綿ト自ラ離テ、綿モ尋常ノ者ヨリ強ク、布ニ織テ益アリ、

〔農業全書 三六 草〕木綿木綿

木綿は、古は唐にもなかりしを、近古宋朝の時分、南蠻より種子を取來りて後、もろこしにひろま

り、本朝にも百年以前其たねを傳へ來りて、今普く廣まれり、南北東西いづれの地にても宜しか

らずと云事なし、其中に付て、河内、和泉、攝津、播磨、備後、凡土地肥饒なる所、是をうへて甚利潤あり、

故に五穀をさしをきても、是を多く作る所あり、中略先種子をゑらぶ事專一なり、其たね色々あ

る中に、白花のかぐら、黄花のかぐら、是すぐれたるたねなり、又紅葉わたとて、楓の葉のごとくな

るあり、是又花黄白の二色あり、又赤わたの大ごくびと云もあり、又ちんこなど、云、何れもよき